

鶴岡市行財政改革推進委員会報告会（会議概要）

○日 時 令和8年3月13日（金）午前11時から

○会 場 鶴岡市役所6階大会議室

○発言概要

<会 長>

今期の行財政改革委員会は、通常の委員会形式ではなく、分科会を開催して第3次行革大綱の総括や今後の行財政改革の方向性を協議してきた。

昨年10月に市長選があり新市政となったが、新しい市長のもと新しい行革の形を作っていくものと考えている。4月から分科会を重ね、これまでの問題点は抽出できたところで、これをどう集約し、どう改革するかを話し合うところだったが、様々な事情もあり中止せざるを得ない状況だった。

4月から新しい形で行財政改革を進めていくと思うが、1年間やってきた分科会の議論を報告したい。最後の委員会となるがよろしくお願いいたします。

<委 員>

8年前に委員に就任したが、この間、行財政運営全般で大きな課題もあるとわかった。収支のバランスは必要だがイレギュラーなこともあるし、削減できないこともあると認識している。新たに行財政専門委員会が立ち上がるなか、こうした課題を一市民として自身もできることがないか考えていきたい。

<委 員>

市長が変われば考え方も変わるのはそのとおりであり、一方で今までやってきた、考えてきたことは次にしっかり繋げていただき、次の行革の方針ができたあがったから終わりではなく、浸透させていくことが重要と考えている。

<委 員>

行財政改革委員会に長く関わることができ貴重な機会だった。議論のなかには知識や経験能力を超えた内容もあったが、一緒に携わった委員と見聞を広め勉強することができた。予測困難で変化の激しい世の中で、行財政専門委員会で進めることは十分納得する。

市民目線で意見するというのは難しい面もあったが、会長や事務局の尽力もあったと感じている。私は委員会の間、託児もしてもらったし、自身の仕事が立ち上ったばかりで、それでも大切にしてもらったことで社会の一員として認

められたと感じる。ワークショップも新たな取組で発言しやすかったし、色々な意見を受けるという姿勢が見えた。単一の価値観で進める会議から、多様な価値観をまとめあげるといった姿勢を感じた。

<委 員>

私も何期か委員会に携わってきたが、任期を重ねるごとに女性委員の割合が増えていく特徴的な委員会だったと思う。多様な意見もざっくばらんな意見も出て、事務局は大変だったと思うが、議論してきた内容を市民に共有できればよいと思っている。

私は、特に歳入確保という視点で委員会に参加してきたところ。他の自治体が行っていることを真似ただけをしても効果は上がらない。他市にない特徴であるが、本市にはクリエイターの方が多く、ただ経営は厳しいと聞いている。それを支援する仕組みを作ることで、そこから人の流れを生むハブになると考える。車の維持も難しいと聞いており、これも支援してはどうか。

歳出については、慣例で続けているものをやめる、なかなかやめられなかったも見直ししてみればすっきりするといった視点が必要だと思う。

<会 長>

16年前、私が榎本市長時代に委員に就任したときには行革を進めていくという想いがあった。就任したばかりであったが様々発言することができたし、当時の思い出は大きい。

選挙のときに行革推進を掲げても、市長就任以降は熱が下がる場合もある。そうすれば職員の熱も下がるし、委員の熱も下がっていく。委員会では具体的内容ではなく文言に終始してしまう。市長の諮問機関なのであれば、具体性に欠けたら意味がないと考えている。第1次行革のときは30億円減らしていくという具体的数字目標があり、当時の進め方としてはよかったと思う。

皆川市長では小さな政府を作ると市民サービスが小さくなるという発想があったが、行革としてはわかりにくくなってきた感があった。行革委員会の位置づけについては行政内部と壁があると感じた。外部委員の我々は市民目線で意見を行ってきたが、提案したものは果たして実現できたのだろうか。

行財政改革には内部も外部もない、具体的な見直ししていかなければ、本当の意味で改革はできないと思う。そこまで踏み込むなら市民目線だけでは済まないものもあり、行政側が委員会をどう位置付けるかによると思う。自身では思うような成果を出せなかったかなとやや残念な気持ちもあるが、委員の皆様には大変感謝している。